



給電機能まるわかりGUIDE

クルマは、
もしものときの
電源になる。

災害が増える今、防災をもっと身近にしたい。

だから、いつものクルマを、もしもの備えに。

クルマが電源になれば、

突然の停電で、日常生活がストップするリスクも少なくできます。

さらに、クルマとおうちを接続すれば、在宅避難も可能に。

災害は、なくせない。でも備えることはできる。

いつものクルマで備える安心、広がっています。



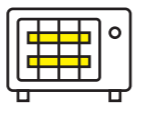

INDEX

給電のメリット／給電機能 設定車	P.1
給電機能の種類	P.2
用語集／Q&A	P.3
給電機能の使い方	P.4
安全にお使いいただく上での注意事項	P.6

POINT 01

約5日*1、電気が使える。
(プリウス2.0Lの場合。プリウス1.8Lの場合は約4.5日)
突然の停電でも、日常を奪われない。

消費電力が400Wなら約5日分の電力供給が可能*2。
 長時間停電が少ない日本*3では、大きな安心になります。

<p>スマホなら</p>  <p>約4,800回*4 満充電できます。</p>	<p>LED電球なら</p>  <p>約6,900時間分*5</p>	<p>電気ストーブなら</p>  <p>約64時間分*6</p>	<p>IH炊飯器なら</p>  <p>約40時間分*7</p>
---	--	---	---

POINT 02

停電中でも、灯りも食事も情報も。
1500W使える*8*9。

停電時に、灯りはもちろん、食事・情報を同時に得ることも可能。さらに暑さや寒さもしのげます*7。
 クルマが、家族みんなの停電時の生活を支えます。

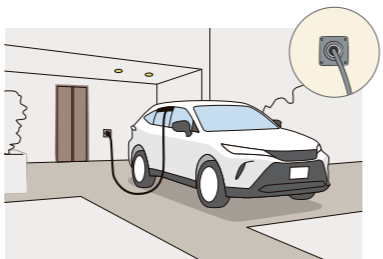
合計1500W以内なら、複数の電気製品*8*9を同時に使えます。

IH炊飯器 1200W	+	扇風機 30W	+	電気スタンド 20W	+	スマートフォン 10W	=	同時使用合計 1260W 給電機能 1500W
-------------	---	---------	---	------------	---	-------------	---	--

POINT 03

クルマと家をつないで
停電時でも電気を使える家に。

クルマde給電*10
 新築でもリフォームでも外観を大きく損なわず、
 災害時にご自宅での安全が確保できる場合には、
 ストレスの少ない在宅避難も可能になります。



「クルマde給電」は●の付いたクルマが対象
 クルマde給電はトヨタホーム側の商品です

POINT 04

さらに、移動する電源として
アウトドアがもっと楽しくなる。

使い方は、非常時だけにとどまりません。
 山・川・海など、あらゆる場所で
 クルマが電源になるので
 レジャーの楽しみ方がグンと広がります。

AC外部給電システム(ヴィークルパワーコネクター)*8を利用

*1.プリウス(2.0L)が外部供給できる電力量(ガソリン満タン時):約48kWh(=約48,000Wh)。一般家庭が日常使用する電力量:1日あたり10kWh(平均消費電力400W)として試算した場合。*2.プリウス(2.0L)の電力供給時間(ガソリン満タン/消費電力400W時)は約5日です。電力供給時間は車種によって異なります。一般家庭が日常使用する電力量:1日あたり10kWh(家庭での1時間あたりの消費電力400W)として試算した場合。*3.1軒当たりの年間停電時間約55分(2011-2018年の平均値)電気事業連合会の資料を基に算出。*4.プリウス(2.0L)が外部供給できる電力量(ガソリン満タン時):約48kWh(=約48,000Wh)として試算した場合、スマートフォン1台をフル充電するために必要な電力量:10W×1h=10Wh。フル充電できるスマートフォン:48,000Wh/10Wh=約4,800回で計算。*5.プリウス(2.0L)が外部供給できる電力量(ガソリン満タン時):約48kWh(=約48,000Wh)として試算した場合、LED電球1個を1時間点灯させるために必要な電力量:6.9W×1h=6.9Wh。LED電球を点灯できる時間:48,000Wh/6.9Wh=約6,956時間(約6,900時間)で計算。*6.プリウス(2.0L)が外部供給できる電力量(ガソリン満タン時):約48kWh(=約48,000Wh)として試算した場合、電気ストーブを1時間使用するために必要な電力量:750W×1h=750Wh。電気ストーブを使用できる時間:48,000Wh/750Wh=64時間(約64時間)で計算。*7.プリウス(2.0L)が外部供給できる電力量(ガソリン満タン時):約48kWh(=約48,000Wh)として試算した場合、IH炊飯器を1時間使用するために必要な電力量:1,200W×1h=1,200Wh。炊飯器を使用できる時間:48,000Wh/1,200Wh=40時間(約40時間)で計算。*8.詳しくはP5「安全にお使いいただく上での注意事項」をご確認ください。*9.電気製品の消費電力は一般的な目安です。製品の種類や大きさなどにより消費電力は大きく異なる場合があります。また、立ち上がり時などは瞬間的に電力を大量に消費します。*10.「クルマde給電」はトヨタホームの非常時給電システム。住まい側に設置して、停電時にクルマと住まいを外部電源接続ケーブルでつなぐことにより、冷蔵庫や照明など、生活に必要な電気製品へクルマから電力供給できるシステムです。給電機能をお使いいただく際は、必ず各車両の取扱説明書をご確認ください。また電子レンジやポットなど、消費電力の大きな機器を使用する際は、他の機器と同時に使用することは避けてください。また、1500W以下でも電気製品によっては正常に作動しない場合があります。HEV、PHEVの場合、一部地域では駐車または停車中にエンジンを始動させると、条例に触れる可能性があります。また駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

給電機能 設定車

MINIVAN					SEDAN						WAGON		SUV	
対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド車	対象: 燃料電池車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: プラグインハイブリッド車	対象: Z*Executive Package、Z、G*Executive Package、G*A Package、G	対象: ハイブリッド全車	対象: 全車	対象: ハイブリッド車	
設定: 標準装備	設定: 標準装備	設定: 標準装備(S-Z、Z)またはメーカーオプション(S-G、G、X)	設定: 標準装備(S-Z)またはメーカーオプション(S-G)	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: 標準装備	設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: 標準装備	
対象: プラグインハイブリッド車	対象: ハイブリッド全車	対象: プラグインハイブリッド車	対象: ハイブリッド全車	対象: プラグインハイブリッド車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: 全車	対象: 全車	対象: ハイブリッド全車	対象: ハイブリッド全車	対象: プラグインハイブリッド車		
設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: メーカーオプション	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備	設定: 標準装備	設定: メーカーオプション	設定: メーカーオプション	設定: 標準装備		

●アクセサリコンセント(AC100V・1500W) ●アクセサリコンセント(AC100V・1500W)/非常時給電システム付 ●AC外部給電システム(ヴィークルパワーコネクター) ●DC外部給電システム

給電機能の種類

	車載の給電装備			別売の外部給電器が必要
種類	アクセサリコンセント 	非常時給電システム 	AC外部給電システム (ヴィークルパワーコネクタ) 	DC外部給電システム 
給電能力	AC100V・1500W	AC100V・1500W	AC100V・1500W	DC9000W以下 (別売りの外部給電器からAC100Vを給電)
クルマの状態	走行中および停車中※ (走行可能状態)	停車中 (走行機能停止状態)	停車中 (走行機能停止状態)	停車中 (走行機能停止状態)
コンセント搭載位置	車内	車内	車外	車外
詳細	●走行中(停車中含む)に車内において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。	●災害などによる非常時に電力が必要なとき、停車中(走行機能を停止した状態)に車内および車外において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。	●普通充電インレットにヴィークルパワーコネクタを接続することで、停車中(走行機能を停止した状態)に車外において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。 ●バッテリーのみで給電する[EV給電モード]と、バッテリーのみで給電し、バッテリー残量が減るとエンジンがかかり給電を継続する[HV給電モード]からモード選択が可能。 ●防水カバーを備えるため、コンセント部を防水可能。	●災害時などの非常時に電力が必要なとき、停車中(走行機能を停止した状態)に車外において、最大消費電力DC6000~9000W以下の大電力を供給可能。 ●DC(直流)電力をAC(交流)電力に変換する別売りの外部給電器が必要となる。 ●別売りの外部給電器はV2H(Vehicle to Home:クルマから家へ)、V2L(Vehicle to Load:クルマから電気製品へ)の2タイプがある。V2Hは建物の既存配線につなぎクルマと建物で双方向に送電できる「据置型」、V2Lでは持ち運びができ、クルマから電気製品へ単方向に給電する「可搬型」の外部給電器となる。
電力の供給先	クルマから電気製品へ			クルマから住宅へ (V2L機器を使用してより大きな電力を供給)
	クルマから住宅へ (クルマde給電を使用して一部の居室へ)			クルマから住宅へ (V2H機器を使用して建物全体へ)

※車外で電気製品を使用するときや、災害などにより非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムの使用をおすすめします。

HEV, PHEV, FCEV, BEVからも給電可能。給電対応車種、増えています。

災害が多発する時代、大切な給電機能。だからこそ、コンパクト、セダン、SUVなど様々なクルマで、もしもの災害に備えることが可能です。

アルファード	ヴェルファイア	ノア	ヴォクシー
シエンタ	クラウンクロスオーバー	クラウン スポーツ	RAV4
ハリアー	カローラ クロス	ヤリス クロス	ライズ
bZ4X	クラウン	プリウス	MIRAI
カローラ	カローラ ツーリング	アクア	カローラ スポーツ
ヤリス	センチュリー		

※2024年7月現在発売モデル

<アクセサリコンセント/非常時給電システム/AC外部給電システム> ■消費電力の合計が1500W以下の電気製品をご使用ください。ただし、電気製品によっては消費電力の合計が1500W以下の場合でも正常に作動しない場合があります。■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってご使用ください。■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気が多い場所では電気製品を使用しないでください。■水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。■アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。■車両の状態によっては、一時的に給電が停止することがあります。■電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数を合わせてご使用ください。■HEV、PHEVの場合、一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動させると、条例に触れる可能性がありますのでご注意ください。<DC外部給電システム> ■DCコンセントをご利用になるには、取り出したDC(直流)電力をAC(交流)に変換する別売りの「外部給電器」が必要です。外部給電器は一般社団法人自動車用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充電システムガイドライン(V2H DC版またはV2L DC版)に準拠したものをご使用ください。外部給電器の詳細については、各機器の取り扱い説明書などをご確認いただくか、製造元へお問い合わせください。ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。■車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。■ベースメーカー(植込み型心臓ペースメーカー/植込み型両心室ペースメーカー/植込み型両心室ペースメーカー)装着のお客様は、給電の操作はご自身でなさらず、ほかの方にお願ひしてください。給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近づかないでください。給電によりペースメーカーの動作に影響を及ぼすおそれがあります。<給電機能をご使用になる場合> ■HEV、PHEVの場合、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。■地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。■車種によって給電の手順が異なる場合があります。■掲載の内容は2024年7月現在のものです。

クルマから取り出した電気は電気製品だけでなく家への供給も可能。

クルマde給電

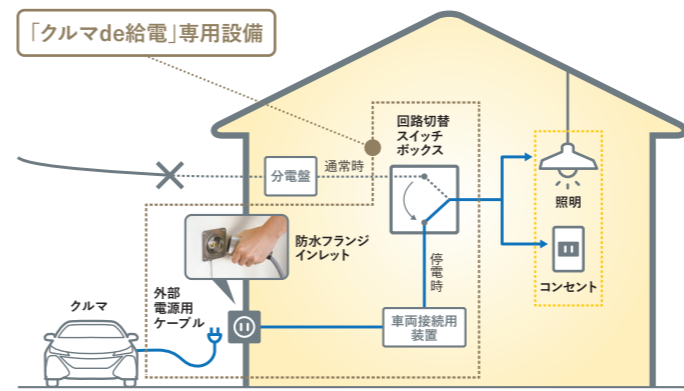
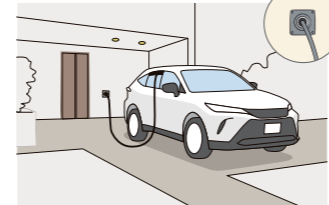
GOOD DESIGN AWARD 2021
BEST 100

非常時にクルマから住まいへ電力供給。

「クルマde給電」はトヨタホーム(株)の商品です(別売:「クルマde給電」をご利用いただくには、専用設備の設置工事が必要です。詳しくはトヨタホーム株式会社【充電関連サポートデスク 0800-777-1152】までお問い合わせください。)

「クルマde給電」は住まい側に設置して、停車時にクルマ*と住まいを外部電源接続用ケーブルで繋ぐことにより、冷蔵庫や照明など、生活に必要な家電類へクルマから電力供給ができるシステムです。

※左記対応車種をご覧ください。



クルマから一部の居室に「最大1500W*」給電することが可能!

※車両が供給できる電力です。必ず各車両(トヨタ自動車)の取扱説明書をご確認ください。また電子レンジや電気ポットなど、消費電力の大きな機器を使用する際は、他の機器と同時に使用することは避けてください。

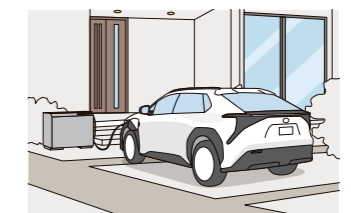
在宅避難時の利便性がさらに向上!
1回路→2回路へ複数回路の設定も対応可能
給電を一部(1回路)の居室だけでなく、複数(2回路)へも対応可能。
例えば、LDKの他、寝室や浴室などにも回路を追加することができます。

電気製品へ大電力を供給。

V2Hスタンド

クルマの充電と、住まいのエネルギーに。クルマとつながるスマートライフを。

「V2H」とは「Vehicle to Home」の略で電気自動車を充電するだけでなく、貯めた電気をご家庭で使用できるシステムです。例えば、停電や震災などで電力供給が寸断されてしまった場合でも、クルマから電力を取り出して、家の電力がまるごと復旧します。これからのスマートライフに欠かせない製品です。



V2L

外部給電器を持ち運びして電気製品*1に給電。

可搬型給電器【パワームーバー】(AC100V・1500W、3個)*2*3 (別売:販売はニチコン株式会社)*4

トランクルームに収納できるキャスター付のトランクケースタイプです。車外で合計4500W*3の電力を電気製品*1に給電できます。外部給電器による建物への電源供給(V2H:Vehicle to Home)には対応していません。



*1.使用する電気製品に付属の取扱書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。*2.給電時にはアースの接地が必要です。*3.1500Wコンセント3個使用で合計4500W以下の電気製品をご使用ください。ただし、4500W以下の電気製品でも正常に作動しない場合があります。*4.詳しくはニチコン株式会社【専用サポートデスク 0120-215-023】までお問い合わせください。

アクセサリコンセント

車内において、AC100Vで最大電力の合計が1500W以下の電気製品を使用できる機能の名称です。車種によって標準装備・メーカーオプションと設定が異なります。

非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態でアクセサリコンセントから給電できる機能の名称です。AC100Vで最大電力の合計が1500W以下の電気製品が使用可能です。車種によって設定の有無が異なります。

AC外部給電システム (ヴェークルパワーコネクター)

普通充電インレットに専用変換アダプタ(ヴェークルパワーコネクター)を取り付け、電源開始操作を行うことで、AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用することができる機能の名称です。

DC外部給電システム

車両の外部給電アウトレットもしくは急速充電インレットに別売りの外部給電器を接続することで、車両から外部へ最大DC6000～9000Wの電力を供給することができる機能の名称です。

EV給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用してAC外部給電を行います。バッテリー残量が少なくなると自動で給電を停止します。

HV給電モード

AC外部給電中に電源供給可能な駆動用電池の残量を下回ると、エンジンが作動して給電を継続します。燃料残量警告灯が点灯する程度までガソリン残量が少なくなると、給電を終了します。

V2H

Vehicle to home(クルマから家へ)の略で、車両から取り出した電力を住宅で利用できるようにする考え方・仕組みのことで、

V2Hスタンド

車両のDC(直流)電力を家庭用のAC(交流)電力に変換するための外部給電器のひとつで、住宅に据え付けるタイプのもを指します。

クルマde給電

トヨタホーム(株)の商品名で、V2Hスタンドなしで車両の給電機能(非常時給電システム付アクセサリコンセントまたはAC外部給電システム)のみで住宅に電力供給できる製品です。住宅に専用工事が必要となります。

V2L

Vehicle to load(クルマから電気製品へ)の略で、車両から取り出した電力を電気製品へ供給できるようにする考え方・仕組みのことで、

パワー・ムーバー

車両のDC(直流)電力を家庭用のAC(交流)電力に変換するための外部給電器のひとつで、ニチコン(株)の商品名です。持ち運び可能で、AC100V 1500Wのコンセントを3つ備え最大4500Wの電力を供給可能です。

アイドリングストップ条例

一部の自治体で定められた条例で、信号待ちや渋滞での停車などを除き、駐停車時にはエンジンを切ることを義務づける条例です。HEV、PHEVのエンジンを始動させる給電はこの条例に抵触する可能性があるため使用の際は自治体への確認が必要です。

※条例の有無・内容は自治体ごとに異なります。

Q 1500Wでどれくらい同時に電気製品が使えますか？

A 20Wの照明を使いながら30Wの扇風機を稼働させて、1200WのIH炊飯器でごはんを炊く、といったことが可能になります。電気製品によって消費電力や起電力が異なりますので、利用の際にはご注意ください。

Q 給電機能で何日くらい電気製品が使えますか？

A プリウス(2.0L)の場合、1日あたり10kWh(平均消費電力400W)として試算した場合で約5日間使用可能です。電気製品の消費電力にもよりますが、一般的なスマホの充電なら約4,800台分、800Wの電気ストーブの使用なら約64時間分の電力量になります。その他の車種は車種カタログ等でご確認ください。※プリウス(1.8L)の場合約4.5日。

Q アイドリングストップ条例があるかどうか、どのように確認すればいいですか？

A 関係自治体のHP等でご確認ください。

Q クルマの経年によるバッテリーの消耗で給電出力や給電持続時間は変わりますか？

A バッテリーの経年変化によって、出力が変わることはありません。給電持続時間については、HV給電モードでは、バッテリー容量の変化により多少減少する可能性はありますが、ほとんど変わりません。EV給電モードについては、バッテリーの消耗に伴い、給電持続時間は減少します。

Q 使用電力が1500Wを超えたときどのような状態になりますか？

A 保護機能が作動し、給電機能が停止します。

Q ガソリン残量が少なくなったときのタイミングで給電が停止されますか？その時にアナウンスはありますか？

A AC外部給電システム、非常時給電システムによる給電の場合、燃料残量警告灯が点灯する程度までガソリン残量が少なくなると、給電が停止します。また、AC外部給電システムによる給電の場合、T-Connectにお申込みいただいた方は、給電が停止するとスマホに通知されます。

Q 非常時給電システムおよびアクセサリコンセントを用いた給電時に常にエンジンがかかっていますか？

A HEV、PHEVは非常時給電システムおよびアクセサリコンセントによる給電中に、エンジンが始動・停止を繰り返します。

Q PHEVのHV給電モードの給電可能時間はどのくらいでしょうか？

A プリウス(Z・PHEV)の場合、約5.5日間使用可能です(1日あたり10kWh(平均消費電力400W)として試算した場合)。その他の車種は車種カタログ等でご確認ください。

※ヴェークルパワーコネクター使用時。

Q 各種外部給電システムは後付けできますか？

A 一部KINTO FACTORYにて対応できる車種がございます。対象車種は<https://factory.kinto-jp.com>よりご確認ください。

Q V2Hスタンドとクルマde給電にはどのような違いがありますか？

A V2HスタンドはDC外部給電システム搭載車に対応可能です。クルマde給電は、非常時給電システム付アクセサリコンセントもしくはAC外部給電システム搭載車に対応可能です。V2Hスタンドに比べ供給可能電力が1500Wと小さいですが、幅広い車種が対応しています。(詳細はP.2をご参照ください)

Q V2Hスタンド*1とクルマde給電*2の設置コストを教えてください。

A 一般的な戸建て住宅への設置費用の目安は、DENSO製V2Hスタンドの場合約143万円～(機器+工事)となります。トヨタホームのクルマde給電の場合、約39.8万円～(機器+工事)となります。

※建物などの条件によって費用は異なります。

*1.V2Hスタンドは別売りです。*2.クルマde給電はトヨタホーム側の商品です。

Q V2L機器(パワー・ムーバー*3)の対象車種や接続方法を教えてください。

A 対象車種はDC外部給電システムが搭載されたMIRAI、bZ4Xとなります。V2Lの外部給電コネクターを車両の急速充電インレット(bZ4X)や、外部給電アウトレット(MIRAI)に接続することで使用できます。

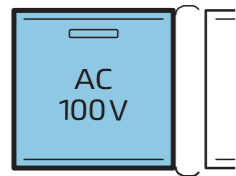
*3.パワー・ムーバーはニチコン側の商品です。

※HEVとHV、PHEVとPHV、BEVとEVはそれぞれ同じものを指しています。

車載の給電装備 (別売の機器が不要)

アクセサリコンセント

(AC100V・1500W)

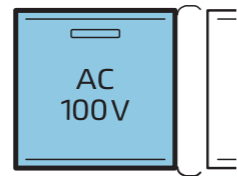


AC100Vスイッチ



アクセサリコンセント

非常時給電システム



AC100Vスイッチ



アクセサリコンセント

AC外部給電システム(ヴィークルパワーコネクター)



ヴィークルパワーコネクター

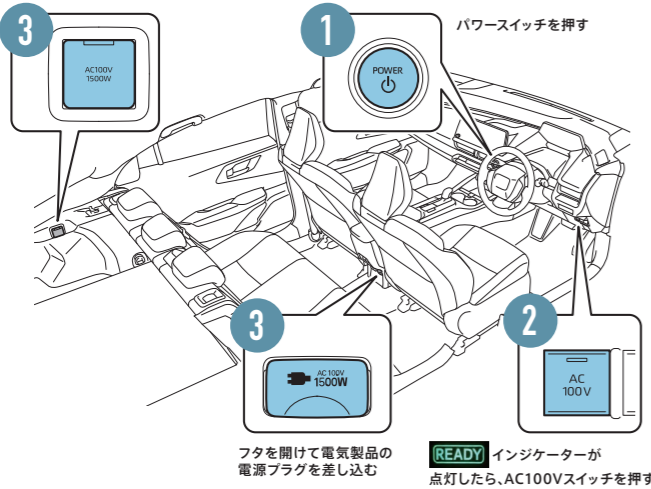


普通充電インレット

種類

使い方

プリウスの場合 車種によって場所が異なりますが、同様のスイッチ及びコンセントが存在します。

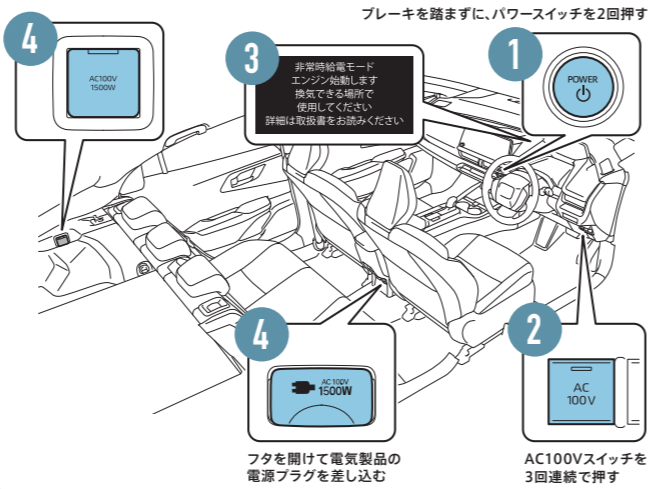


1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキをしっかりと踏みながらパワースイッチを押してください。

2 READYインジケータが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押してください。作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。AC100Vスイッチを押すたびに、コンセントのON/OFFが切り替わります。

3 フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。
※ラゲージルーム内のコンセントがない車種もあります。
※接地極付きコンセントがない車種もあります。
その場合は、アース線をアース端子に接続してください。

プリウスの場合 車種によって場所が異なりますが、同様のスイッチ及びコンセントが存在します。



1 ブレーキを踏まずに、パワースイッチを2回押して、「イグニッションON」状態にします。
※車両によってはブレーキを踏まずにパワースイッチを1回押して、「パワーON」状態になる車両もあります。
ブレーキを踏んでいると非常時給電システムは使用できません。
※「パワーON」と、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車種もあります。

2 READYインジケータが点灯していないことを確認し、AC100Vスイッチを3回連続で押してください。AC100Vスイッチを押す間隔が1秒以上あかないように、連続して押してください。

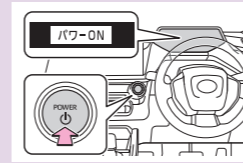
3 マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの説明が表示されたら起動完了となります。

4 フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。
※ラゲージルーム内のコンセントがない車種もあります。
※接地極付きコンセントがない車種もあります。
その場合は、アース線をアース端子に接続してください。

プリウス(PHEV) マルチインフォメーションディスプレイでの操作の場合
※マルチメディアディスプレイでの操作も可能です。

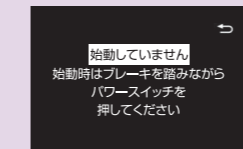
1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、ONにする。

メーターに「パワーON」と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC外部給電システムが使用できません。ONにしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトポジションがPでないと、AC外部給電システムを使用できません。



2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、メーター操作スイッチの \odot を押して前の画面にもどす。

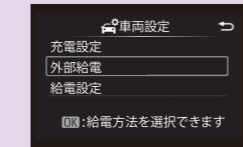
一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。その場合は、そのつど \odot を押して前の画面にもどしてください。



3 メーター操作スイッチの \odot または \square を押して \odot を選択する。

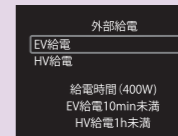
4 メーター操作スイッチの \odot または \square を押して「車両設定」を選択し、 \odot を押す。

5 メーター操作スイッチの \odot または \square を押して「外部給電」を選択し、 \odot を押す。外部給電モードの選択画面が表示されます。



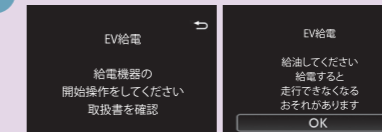
6 メーター操作スイッチの \odot または \square を押してご希望の外部給電モードを選択し、 \odot を押す。

外部給電モードの選択画面
上に、各モードでの外部給電可能時間の目安が表示されます。



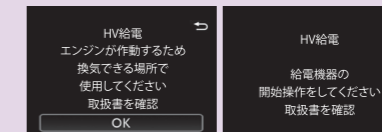
EV給電モードを選択した場合

7 操作ガイド画面の表示に従う。



HV給電モードを選択した場合

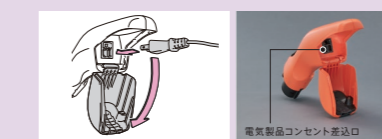
7 使用上の注意に関する画面を確認して \odot を押す、操作ガイド画面の表示に従う。



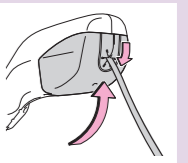
8 ヴィークルパワーコネクターを用意する。ヴィークルパワーコネクターに異常がないことを確認してください。



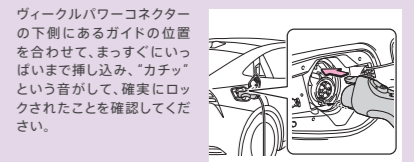
9 ヴィークルパワーコネクターの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する。電源プラグは奥までしっかり押し込んでください。



10 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる。防水カバーがロックされたことを確認してください。



11 充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクターを普通充電インレットに接続する。



12 ヴィークルパワーコネクターの電源スイッチを2回連続で押す。



13 充電インジケータが点灯したら、接続した電気製品の電源をONにする。



■詳しくは、給電マニュアル動画または各車種の取扱書および、外部給電器に付属の取扱説明書をご確認ください。 ■AC100V・1500W未満のアクセサリコンセント付車を除く。 ■工場出荷時の電源周波数は車種によって異なります。車種の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

別売の外部給電器が必要

DC外部給電システム

種類

BEV



給電イメージ

FCEV

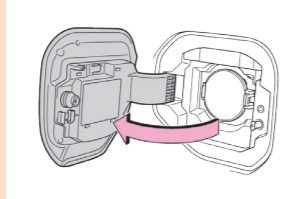


外部給電アウトレット
(ボンネット下コンパートメント内)

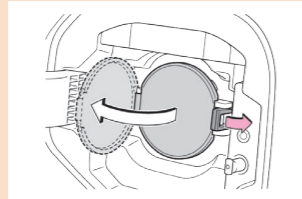
bZ4Xの場合

- 1 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける。

急速充電リッド(車両の左側)を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。

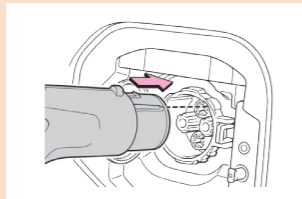


- 2 急速充電インレットキャップを開ける。



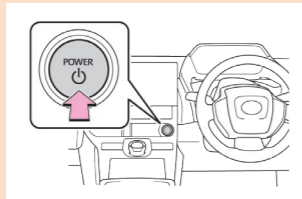
- 3 外部給電コネクタを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む。

外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



- 4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押してONにする。

マルチインフォメーションディスプレイに「パワーON」と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EVシステムが始動してしまい、DC外部給電システムが使用できません。



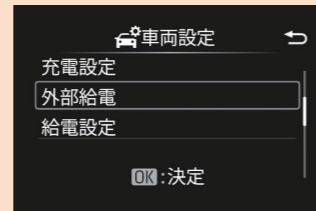
マルチインフォメーションディスプレイまたは、マルチメディア画面で外部給電の設定が行えます。

マルチインフォメーションディスプレイでの操作

- 5 マルチインフォメーションディスプレイの画面で、メーター操作スイッチのくまたはを押しして「車両設定」を選択し、OKを長押しする。

- 6 メーター操作スイッチの^またはvを押しして「外部給電」を選択し、OKを押す。

外部給電モードの選択画面が表示されます。



- 7 メーター操作スイッチの^またはvを押しして「EV給電」を選択し、OKを押す。

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。駆動用電池の残量が低下しているときは、EV給電モードを選択できません。



- 8 OKを押す。
給電待機画面が表示されます。スイッチを押すと、DC外部給電システムの設定操作が中止されます。

マルチメディア画面での操作

- 5 車を押す。

- 6 「外部給電」を押す。

外部給電モードの選択画面が表示されます。



- 7 「EV給電」を押す。

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。駆動用電池の残量が低下しているときは、EV給電モードを選択できません。



- 8 操作ガイド画面の表示に従う。

- 9 外部給電器で開始操作をする。

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。外部給電器によっては、パワースイッチがOFFになり、給電が停止することがあります。その場合は、再度手順4から開始操作を行ってください。

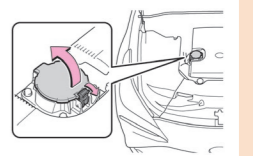
- 10 接続した電気製品の電源をONにする。

充電インジケータが点滅しているときはDC外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。DC外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイで、現在の給電状況をお知らせします。

MIRAIの場合

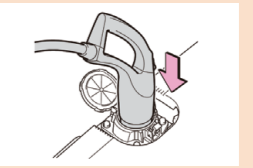
- 1 ボンネットを開く。

- 2 外部給電アウトレットのキャップを開ける。



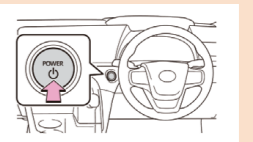
- 3 外部給電器の手順に従い、給電コネクタを外部給電アウトレット(ボンネット部)に挿し込む。

外部給電コネクタを挿し込むときに給電ケーブルがボデーに接触してしまうことがあります。ボデーに傷などつかないようにご注意ください。外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器のタイプにより異なります。外部給電器の取扱書に従って、作業を行ってください。



- 4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを2回押ししてONモードにする。

メインディスプレイに「イグニッションON」と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、FCシステムが始動してしまい、DC外部給電システムが使用できません。



- 5 外部給電器の手順に従い、外部給電器の給電操作をする。

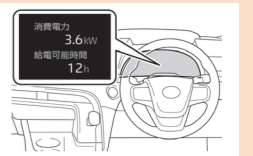
特定の外部給電器によっては、パワースイッチがOFFになり、給電が停止する場合があります。そのときは、停止から2分以上あけてから、再度2から実施してください。

- 6 マルチインフォメーションディスプレイに表示される使用上の注意に関する画面を確認し、メーター操作スイッチの「OK」を押す。



- 7 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます。

給電開始まで数秒かかります。外部給電器に接続した電気製品を操作して、使用してください。



■詳しくは、給電マニュアル動画または各車種の取扱書および、外部給電器に付属の取扱説明書をご確認ください。 ■AC100V-1500W未満のアクセサリコンセント付車を除く。 ■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

安全にお使いいただく上での注意事項

お守りいただかないと思われぬ事故の原因となり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。詳しくは取扱書をご覧ください。詳しくは取扱書をご覧ください。詳しくは取扱書をご覧ください。

アクセサリコンセント／非常時給電システムの場合

【電源コード／配線】

■コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。 ■アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が発生する可能性があります。 ●走行中の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障する可能性 ●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気が多い場所では使用しないでください。 ■水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。 ■車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。 ■次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品 ●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品 ●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品 ●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

非常時給電システムの場合（車外の電気製品と接続してご使用になる場合は次の項目にもご注意ください）

【車両の安全確保】

■車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●シフトはPポジションにして、パーキングブレーキを作動させてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠することはできません。 ●メカニカルキーでドアを施錠してください。(ワイヤレスリモコンでドアを施錠できる車両もあります。) ■落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気づいたときは給電を停止してください。 ■HEV、PHEVの場合、一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動させると、条例に触れる可能性がありますのでご注意ください。

【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■車外に電源コードを引き出して使用する場合は、雨水の浸入などにご注意ください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。 ■電源コードをドアなどに挟まないようご注意ください。

【換気】

■HEV、PHEVの場合、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動する場合があります。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。 ■FCEVの場合、発電時に酸素を消費します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰などに移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。

【エアコンの使用に関する警告】

■非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用しているも、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な障害に及ぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

AC外部給電システム(ヴェークルパワーコネクター)の場合

【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。 ■車内のアクセサリコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認してください。AC外部給電を開始したときに、車内のアクセサリコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。 ■ヴェークルパワーコネクターの端子部が濡れないようにしてください。 ■ヴェークルパワーコネクターの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにしてください。 ■ヴェークルパワーコネクターと普通充電インレットは、変換アダプターや延長コードなどを使用せず、必ず直接接続してください。 ■車外コンセントに電源プラグを接続した後は、防水カバーを確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。 ■ヴェークルパワーコネクターの上に重量物を置いたり、物を引っ掛けたりしないでください。

【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が

発生する可能性があります。 ●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気が多い場所では使用しないでください。 ■水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。 ■車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。 ■次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品 ●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品 ●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品 ●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

【車両の安全確保】

■次のことをお守りください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●必要に応じて、ドアやヴェークルパワーコネクターを施錠してください。 ■落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気づいたときは給電を停止してください。 ■HV 給電モードの場合、一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動させると、条例に触れる可能性がありますのでご注意ください。

【換気】

■HV給電モードの場合、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動する場合があります。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰などに移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。

【エアコンの使用に関する警告】

■AC外部給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用しているも、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な障害に及ぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

DC外部給電システムの場合

以下はBEVの場合の注意事項になります。(FCEVの場合は一部異なる注意事項がございます。詳しくは車両に付属の取扱書をご確認ください。)

【DC外部給電システムの使用中は】

■シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。 ■外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。 ■車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。 ■スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。 ■ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。(メカニカルキーでもドアを解錠・施錠することができます。) ■ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。 ■気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合は、使用する電気製品を減らしてください。 ■走行中はDC外部給電システムを使用できません。 ■使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。 ■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するためにDC外部給電システムが自動で停止することがあります。その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC外部給電を開始してください。 ■特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC外部給電システムを使用できないことがあります。その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。 ■外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ(例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など)が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。この場合、外部給電コネクターの端子故障(接点不良)などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書を確認してください。

【DC外部給電システムを使用する時の警告】

■傾いた場所や坂道などに止めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。 ■誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ■可燃物や危険物を車両の近くに置かないでください。 ■給電を開始する前に、接続した電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。 ■車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。 ■お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わないでください。 ■外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続してください。外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。 ■落雷の可能性がある天候のときはDC外部給電システムを使用しないでください。使用中、雷に気づいたときにはDC外部給電システムを停止してください。 ■外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認してください。付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。 ■外部給電コネクター・急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの(ピンや針金など)を挿し込まないでください。

【DC外部給電システムがおよぼす影響について】

■植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を使用している方は、次のことを必ずお守りください。医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。 ●給電中は車内にとどまらない ●給電中は車内・外部給電器・ケーブルから十分に距離をあげ近づかない